

令和6年度「ながの未来トーク（浅川地区）」集約表

開催日：令和6年10月26日（水）

◇視察：午後1時30分

◇懇談：午後3時

会 場：◇視察：浅川ダム展望広場～浅川葡萄農園（圃場・醸造所）～ブランド薬師

◇懇談：真光寺公民館

地元参加者：16人（男性15人、女性1人）

市側出席者：荻原市長、中村企画政策部長、藤澤地域・市民生活部長、北澤都市整備部長
村田観光振興課長補佐、山本文化財課長補佐、湯本農業政策課長補佐、
宮本浅川支所長

集約担当：浅川支所

【懇談内容】

1 < 浅川地区の概要及び「まちづくり計画推進」の経過 >

《発言1》

浅川地区の概要を資料に沿って簡単に説明する。

浅川地区は、中山間地区と平場いわゆるまち場が同じ地区にあるということで、よく言われるのがミニ長野市。そういうイメージを浅川では持っている。

8割の住居は平場にいるが、特に浅川ダムより上の地区のほとんどが小規模集落であり、著しい高齢化が課題となっている。

浅川地区全体の総人口は6,107人、世帯数2,692世帯（R6.9.1現在）高齢化率も若干市の平均よりも高く40%くらいになっている。

一番大きな区は西条地区のように640戸もあれば、中山間地の少ない区では9戸しかない区もあり、中山間地区の在り方が大きな課題となっている。特に区長をはじめとする自治を担う役員の選出が年々厳しくなっている。

浅川地区では毎年市民運動会を開催しているが、今年は全19地区のうち、10地区しか参加がない状況であった。

ちなみに生後1年の人数が令和5年は20名、要するに浅川地区では20名しか新生児が生まれなかったということになる。高齢化が進む中で、いかに若い人たちに定着してもらうかも今後の課題となってくる。

観光資源としては、本日見ていただいたように自然豊かでこれを活用したコンテンツを作っていきたいと思い、住民自治協議会まちづくり委員会では、わくわくウォーキングパークという計画を作って、次年度に向け、市の補助金の申請を準備している。

今後、またご支援をお願いしたい。

2 < 八榎神社（ブランド薬師）文化財指定・保存の取組 >

《発言2》

ブランド薬師については、平成28年に信州大学工学部の土本教授が貴重な建造物であるため、文化財に向けての調査をさせてくれということで地元には要請があり、文化財に申請するためには保存会が必要ということで保存会を組織し、平成30年3月に長野市の有形文化財指定にしてもらった経過がある。

その後、北郷区に代々伝わっていた膨大な古文書を私が区長の時に整理しようという話が出て、市の公文書館に持ち込んで整理をした。

その整理をする中で、八榎神社に関連する資料があればそれだけ抜粋して分けてくれという話の中で、写真や改修の設計図など大変貴重なものがあった。

その設計図をもとに信州大学の土本教授が再調査を実施し、その結果、より詳細な八榎神社の構造が明らかになった。という経過がある。

この公文書が見つかったことが契機となり、新聞、テレビなどのマスコミで取り上げられて、それが良い効果を呼んだのか、知名度も上がり参拝の方や散策の方が地区の内外からお見えになっていただくようになった。

現在は、チーム・フロンティア浅川の皆さんの力を借りて、ブランド八榎活性化対策委員会の人たちと一緒に順次参道整備等、パトロールを行ってきた。

最近では記帳台を設けるとともに、御朱印帳を作って、これをあそこに置いて来訪者に持って行ってもらいたいと考えている。有償にするか、無料にするかは現在、検討中である。また、ここにきて規約を少し改正した。八榎神社は、浅川全体の宝物であるという考えのもと、浅川地区全体で保存会を支えていくこととし、令和5年度から新しい体制でスタートしたもので、今後の取り組みとしては、本殿内部が結構傷んでいるため、拝殿の床、天井など修復を計画している。すでに工事の見積もりを取っており、寄付や補助金などで何とか来年度を目途にして完成を目指そうと考えている。

それについても工事の大半は市の支援（補助）が必要となってくるため今後も引き続き、支援をよろしく願いたい。

《回答》

八榎神社の修復についてお答えしたい。

八榎神社は平成30年3月に社殿が長野市の有形文化財に指定された。

現在の社殿は江戸の末期に再建されたもので、そこから改修も何度か繰り返されている。

本日の視察で天井や壁が傷んでいる状況を確認した。修復に関しては、文化財保護事業に関する補助制度があり、修復費用の1/2まで補助が出るので、こちらを活用いただければと思う。また長野市の文化財保護審議会があり、建築を専門とする委員もいることから、今後一緒に整備の方針なども検討しながら進めていければと考えている。

〔山本文化財課長補佐〕

《回答》

ブランド薬師の参道は遊歩道ということで捉えているが、表参道・裏参道、両方の遊歩道の日常の草刈りや清掃などの維持管理を、ブランド薬師公園活性化委員会に担っていただいている。

また、倒木などにも即座に対応いただいております、感謝申し上げます。

遊歩道整備としては、対応困難な支障木の伐採や修繕等については、市のほうに連絡をいただき対応させてもらっているが、今後の整備等についても、相談をいただきながら対応していきたい。

〔村田観光振興課長補佐〕

3 < ブランド八幡公園・浅川ダム周辺整備及び浅川ダム展望広場愛護会の活動 >

《発言3》

まず、先日の「花と緑の大賞2024」大賞をいただき感謝申し上げます。

本日、ブランド薬師からしっかり歩いてもらい、状況は分かってもらえたと思うが、浅川地区のキーワードは「浅川ダム」である。昨年、市の主催で開催した地区をPRする催しでも、各地区からのアンケート結果で、浅川地区には浅川ダムという宝があって羨ましいという意見が沢山あった。

浅川ダムというのは浅川地区の宝である。

浅川ダムは市長もご存知のとおり全国でも珍しい穴あきダム。2017年3月に竣工し、現在に至っているが、ダムの上流側には広大な敷地があることから、ここに私たちは、フジバカマ苑を作ってアサギマダラの飛来地として、現在は多くの見学者が来るようになった。また、ループ橋の土手のところにはハナモモの里を作った。

浅川ダムには、浅川地区の方は勿論のこと、長野市民、県民、そして全国から見学者が訪れるので、地域の活性化のために日々綺麗にし、整備している状況である。

そこで市にお願いがある。

長野市には善光寺、松代、戸隠など有名な観光スポットがあるが、平地と中山間地区を併せ持ち、浅川ダムもある浅川地区は注目されるべきところだと考える。

従って新たな観光振興の拠点となるよう是非、地域が元気になるような有効活用をお願いしたいと思う。

《回答》

まずチーム・フロンティア浅川の皆さんにおかれては、活発に活動されており地域の緑化でご活躍をいただいている。市の方でハナモモの苗木や花の球根を提供した経緯はあるのだが、それを大切に育てていただき、普通であれば法面の下でなかなか使えない土地を有効に活用し、観光に活かしていることはただ努力だけでなく、工夫があると考えている。それから浅川ダムの展望広場公園の愛護活動や活動報告についてきちんとやっていただき感謝申し上げます。あとダムでのイベント等も実施していただいております。過去に浅川ダムに反対されたという時期があったが、先程、ダムが地域の宝という言葉聞き、非常に感動した。ダムの掘削の残土もどこに置けばよいのか途方に暮れた時期もあったのだが、それも地区で受け入れていただき、そこにワイン用ブドウを栽培し、それがワインになるという本当に当時は考えられなかったこと。

先ほどから出ているように本当に地域を愛する心があるな。と感じているところである。

本日はそのような活動に対して、案内看板を設置出来ればという考えもあったのだが、今日視察で見せてもらったら、いくつかの看板が設置されている状況もあり、そういった中でご要望があれば、更にもっと分かりやすいとか綺麗な看板を公園緑地課としてご協力をしたいという気持ちを持っているので、ご相談いただきたい。

また、来年も「花と緑の大賞」にも応募していただきたい。

〔北澤都市整備部長〕

4 < 長野市浅川葡萄農園への支援の取り組み >

《発言4》

宋園主は作業が立て込んでおり、私が代わりに話をさせていただく。

宋さんが浅川に来て7年目になる。ようやくここまで来たという感じである。

昨年、非常に柔らかくて優しい味の浅川らしいワインが初めて出来上がった。

しかしながらワインは自然のものなので、今年は病気などで苦労して昨年の収量の半分くらいになっているのではないかと思う。ワイナリーも出来ているので、毎年3,000本から5,000本くらい安定的に製造できるようなワイナリーになっていくことを期待している。

については、ワイナリーの開設に当たり、やまざとビジネス支援補助金を頂いて開設できたのだが、そうした資金的援助に次ぐ、ワイナリー向けの補助制度、これは国なり県などがやるべきなのかもしれないが、市としても何らかの形の支援が出来ないかどうか。

これから3つのワイナリーがそれぞれ育っていくためにも、是非、必要ではないかというのが1つ。

それから、篠ノ井、信州新町、浅川とようやく3つのワイナリーが出来た。

そういう中で、それに対するネットワークが出来て長野市産ワインが1つの魅力として定着するような形の施策が必要ではないか。

千曲川ワインバレーとか東御では盛り上がっているのでワインツーリズムとまではいかないかもしれないが、そういう展望をもって対応してもらいたい。

それから宋さんは夫婦でやっているが、そういった意味で経営的なサポートや税務相談などの悩みにぶち当たる場面も出てくると思うが、そうした時にネットワークを作った中での相談とか、経営相談とかにも乗れる体制が取ればよいと思う。

今後も浅川のワイナリーが育っていくために、ご支援・ご協力をお願いしたいと思う。

《回答》

市では平成27年度からワイン用ブドウ産地形成事業として、ワイン用ブドウの栽培支援を行っている。支援内容はワイン用ブドウの苗木購入や棚の設置費用の補助などである。

また、長野市ワイン用ブドウ研究会を発足し、栽培指導技術向上のための講習会を開催している。ワイン用ブドウの栽培面積については、平成26年は市内全域で5haだったものが、令和5年10月には15.5haと栽培面積が拡大している状況である。そのうち、浅川地区は1.3haでこれは宋さんの圃場である。

現在、市内では20の事業者あるいは生産者の方がワイン用ブドウの栽培に取り組んでおり、生産者と栽培面積の増加に伴って、ワイナリーの開設希望者が増えたことから、令和5年1月に長野市ワインシードル特区の認定を国から受けて、今年度3つのワイナリーが開設したものである。市としても引き続き、ワイン用ブドウの栽培支援を行うとともに、今年度開設したワイナリーは3つとも特色があり、そのワイナリーでつくられるワインに期待をしているところである。今後、長野市産ワインのPRやブランド化について、皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

〔湯本農業政策課長補佐〕

5 < その他 >

《発言5》

浅川ダム、浅川の宝を守るため、浅川ダム展望広場の草刈りを浅川地区の全区長が中心となり、毎月実施している。この活動は愛護会を組織して行っているのですが、市から規定に基づく報奨金は頂いているが、草刈り機、ブロワーなど各自持ち込みで行っており、かつ広範囲で行っているため、財政的に厳しいのは承知しているが、是非、報奨金の見直しの検討をお願いしたいと思う。

《市長総括》

本日は、皆さんから貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

浅川ダムをはじめ全てのことについて、浅川の皆さんが愛情を持って取り組まれている姿を見て、私自身感動した。

いただいたご提案については、これからしっかり相談させていただく。

浅川地区の世帯数が2,700世帯で、宋さんのワインの出荷が年間3,000本から5,000本だとすると、浅川地区の1世帯1本か1.5本を手にももらえれば完売する状況で、浅川地区以外に出回らないのではないかと心配するくらいである。

それから、ブランド薬師の冊子に、長野市有形文化財に認定されている旨のシールを貼るなど、何らかの表示をしたほうがよい。

わずかな範囲に浅川ダム、ハナモモの里、ブランド薬師、ワイン用葡萄園など、これだけの観光資源があるのが浅川の凄さだと感じたし、そして町場や中山間地域があり、本当にミニ長野市という意味も理解することが出来た。

本日は本当に充実した視察・懇談であった。